

2006年3月期決算説明会

過去最高益を更新。工業用マシン事業が好調

2006年6月1日

JUKI株式会社

取締役社長 中村 和之

Mind & Technology

JUKI
Mind & Technology

目次

第1部 06/3期(05年度)業績

- 1. 06/3期(05年度)決算のポイント 3
- 2. 業績推移 4
- 3. 主要財務指標推移 6
- 4. キャッシュフロー(営業・投資)推移 7
- 5. 株主資本・利益剰余金推移 8
- 6. 主要財務指標改善状況 9

第2部 06/3期(05年度)セグメント別 業績と事業動向

- 1. セグメント別業績 11
- 2. 工業用マシン事業 13
- 3. 産業機器事業 16
- 4. 家庭用マシン事業 19
- 5. 電子・精密機器事業 21
- 6. その他事業 23

第3部 07/3期(06年度)業績予想

- 1. 06年度の課題 26
- 2. 06年度の開発投資計画 27
- 3. 06年度における家庭用マシン
事業の総合的改革の推進 28
- 4. 07/3期(06年度)業績予想 29
- 5. 07/3期(06年度)セグメント別
業績予想 30

第4部 中期経営計画の達成状況

- 1. 目標項目の達成状況 33
- 2. 株主還元のお考え方 34

第1部

06/3期(05年度)業績

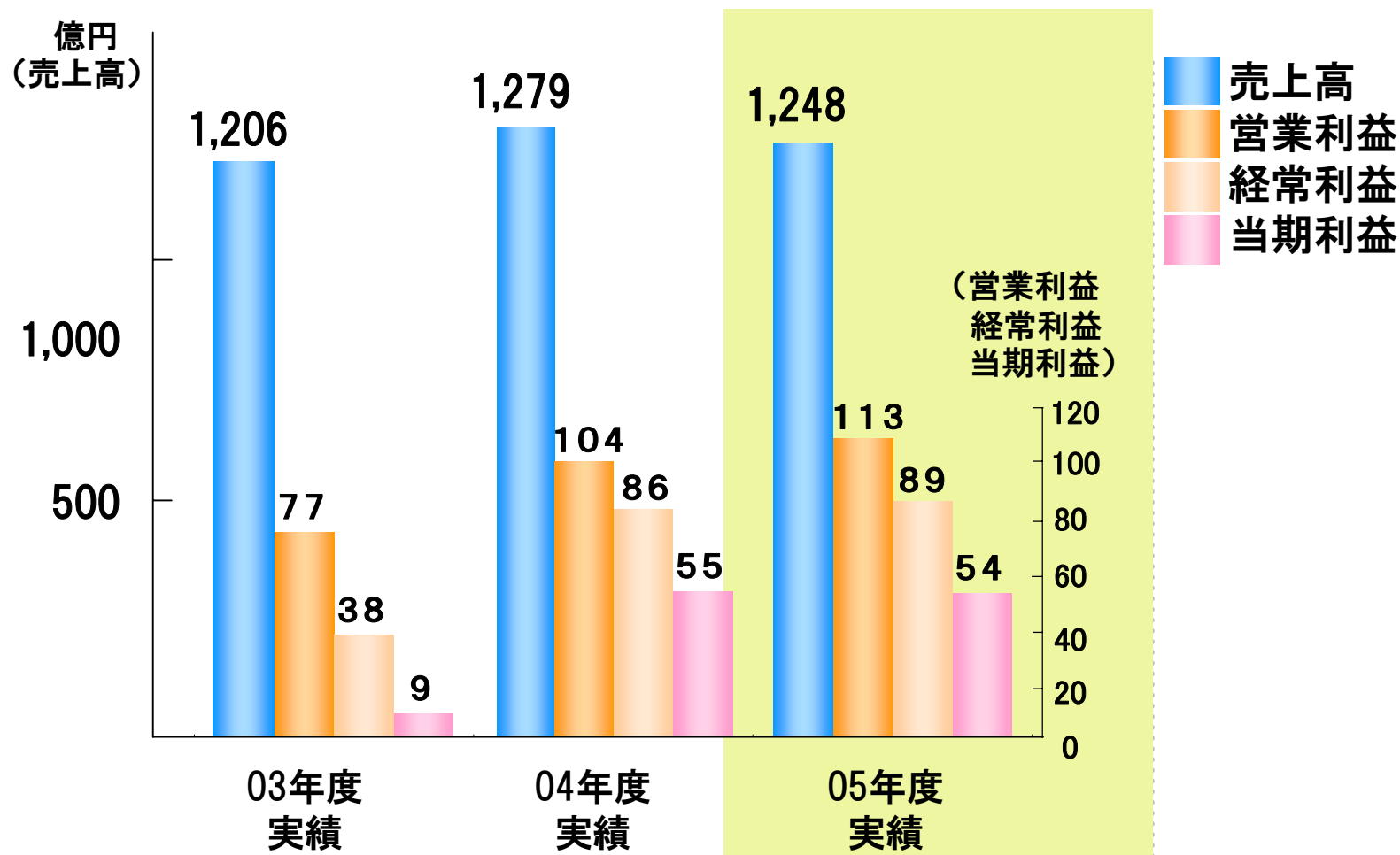
2期連続で過去最高益を更新、財務体質も更に改善

1. 売上高は、工業用マシンが順調に伸びたものの、訪問販売の減収を吸収しきれず、全体では微減
2. 工業用マシン事業は大幅増益。産業機器事業、電子・精密機器事業も前年並みの利益を確保。家庭用マシン事業は赤字となったものの、全体ではこれを吸収して、営業利益・経常利益とも増益
3. 有利子負債を490億円まで圧縮。中計目標値500億円(07年度)を2年前倒しで達成
4. 株主資本は277億円に倍増。株主資本比率も24.4%に上昇し、中計目標である30%を視野に

04年度対比売上高は減少したものの、営業利益および 経常利益は最高益を更新

単位：百万円

	03年度 実績	04年度 実績	05年度 実績	04年度比 増減	04年度比 増減率
売上高	120,625	127,949	124,788	△3,161	△2.5%
営業利益	7,711	10,441	11,266	825	7.9%
経常利益	3,815	8,646	8,890	244	2.8%
当期純利益	866	5,523	5,369	△ 154	△2.8%

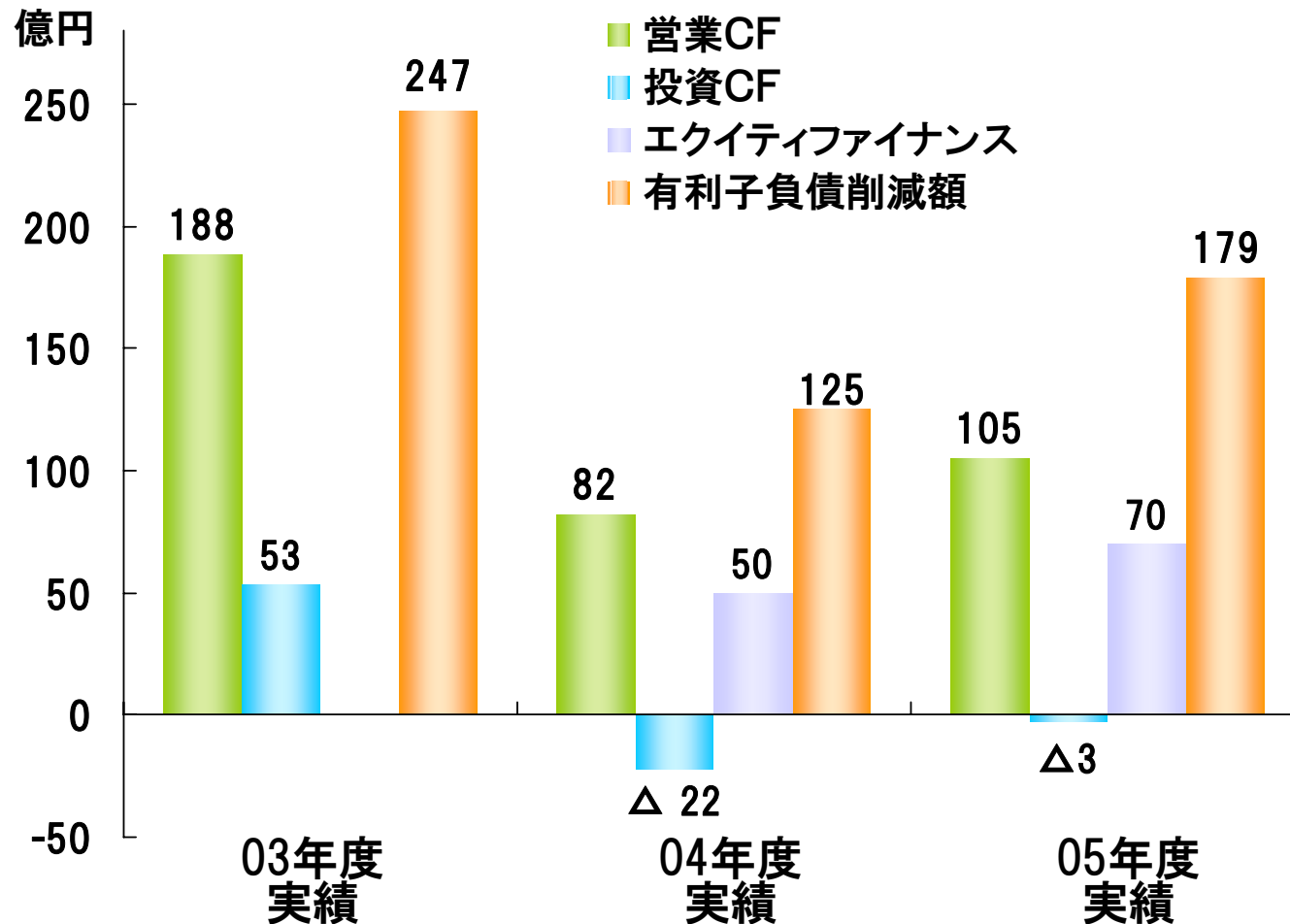


有利子負債は初年度で中計最終目標値500億円を達成。
株主資本は04年度比倍増

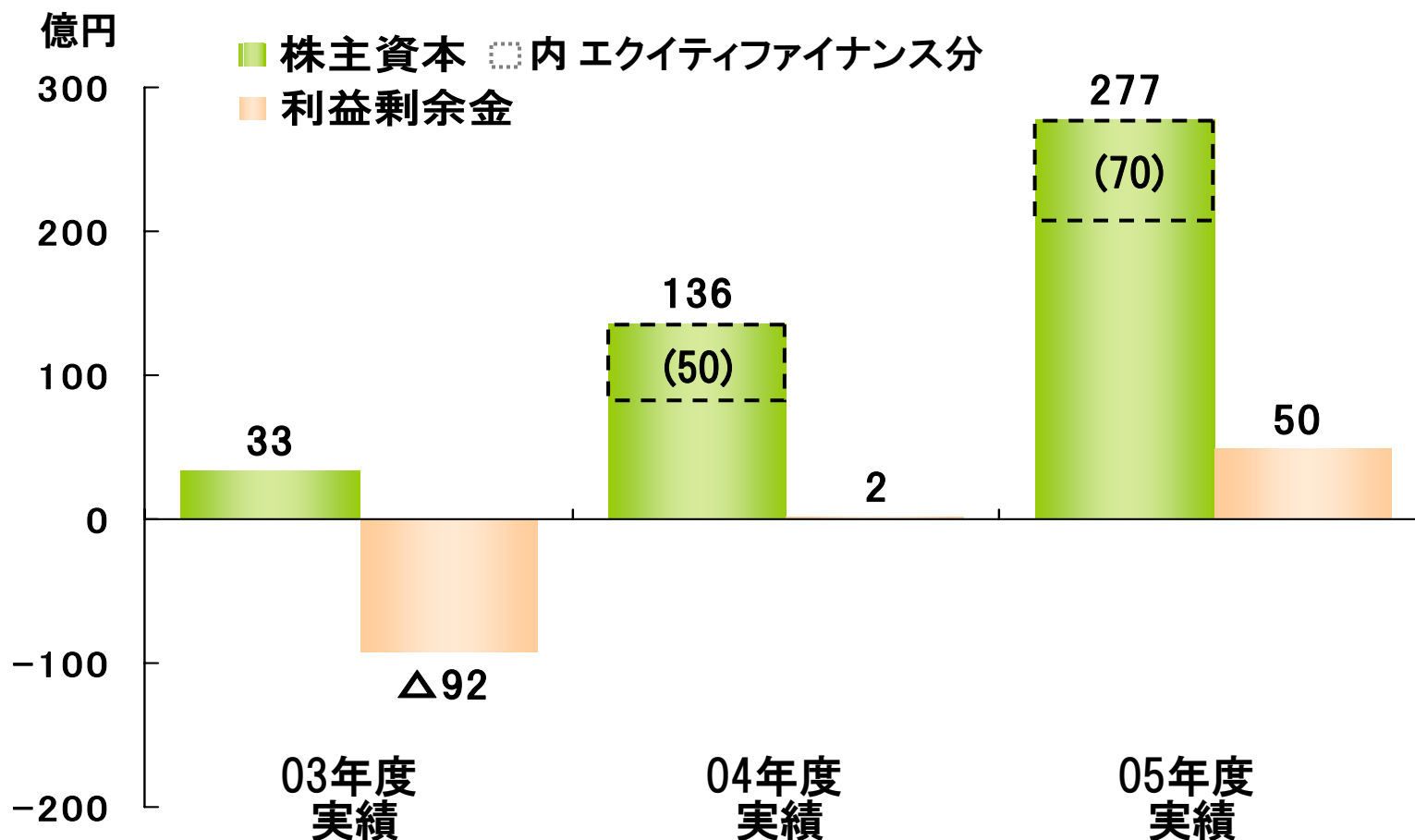
単位：百万円

	03年度 実績	04年度 実績	05年度 実績	04年度比 増減	04年度比 増減率
総資産	118,562	115,916	113,923	△1,993	△1.7%
有利子負債	79,336	66,877	48,979	△17,898	△26.8%
株主資本	3,259	13,566	27,745	14,179	104.5%
株主資本比率	2.7%	11.7%	24.4%	+12.7%	—

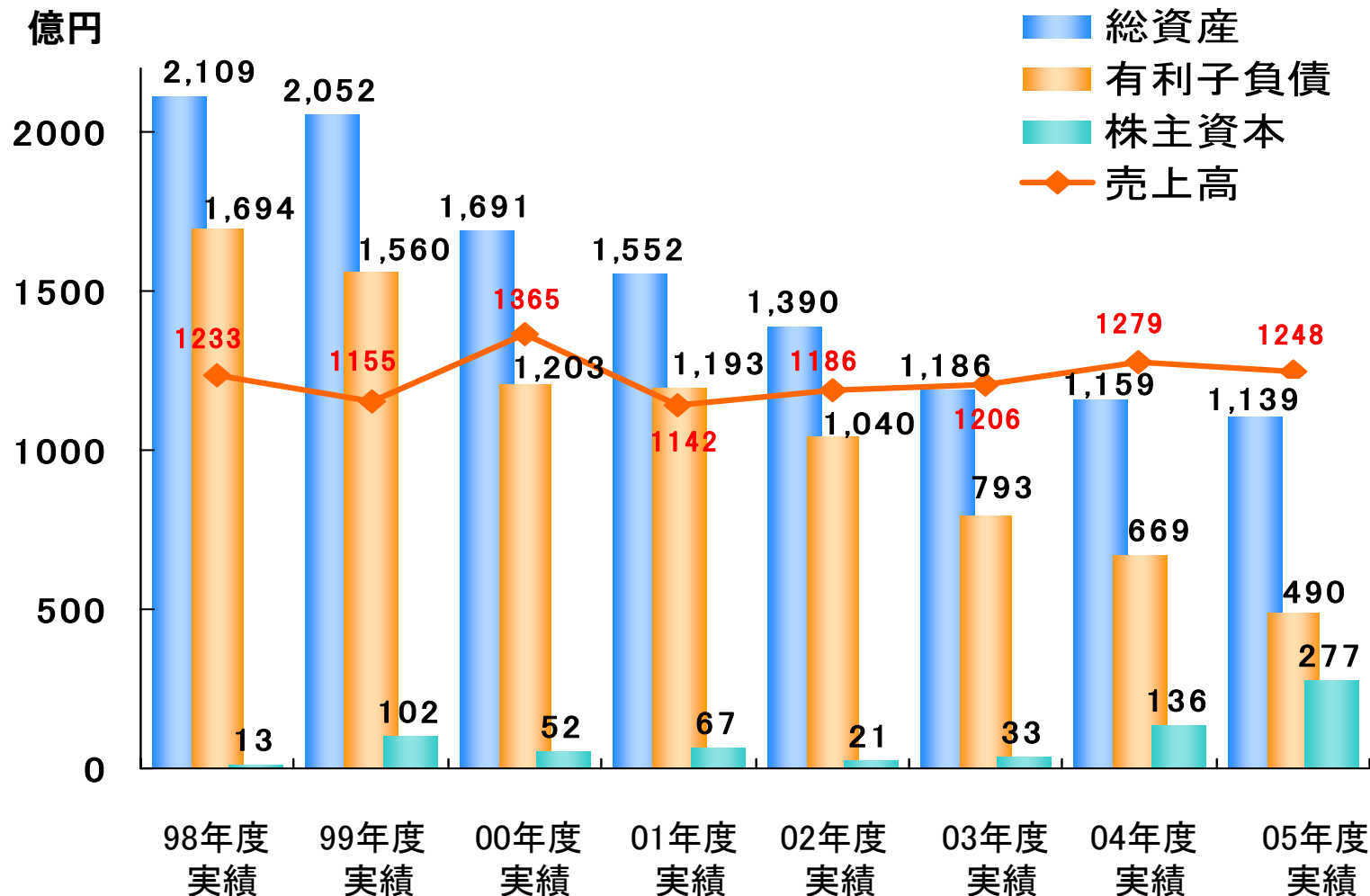
営業キャッシュフロー105億円、エクイティファイナンス70億円等により、有利子負債を179億円削減



株主資本・利益剰余金とも順調に増加。エクイティファイナンスの実行により、株主資本は更に充実



有利子負債残高はピーク時(98年度)の3割以下に減少。
 財務体質が大幅に改善



第2部
06/3期(05年度)セグメント別
業績と事業動向

工業用マシンは2期連続増収。トータルでは2.5%のマイナス

単位:百万円

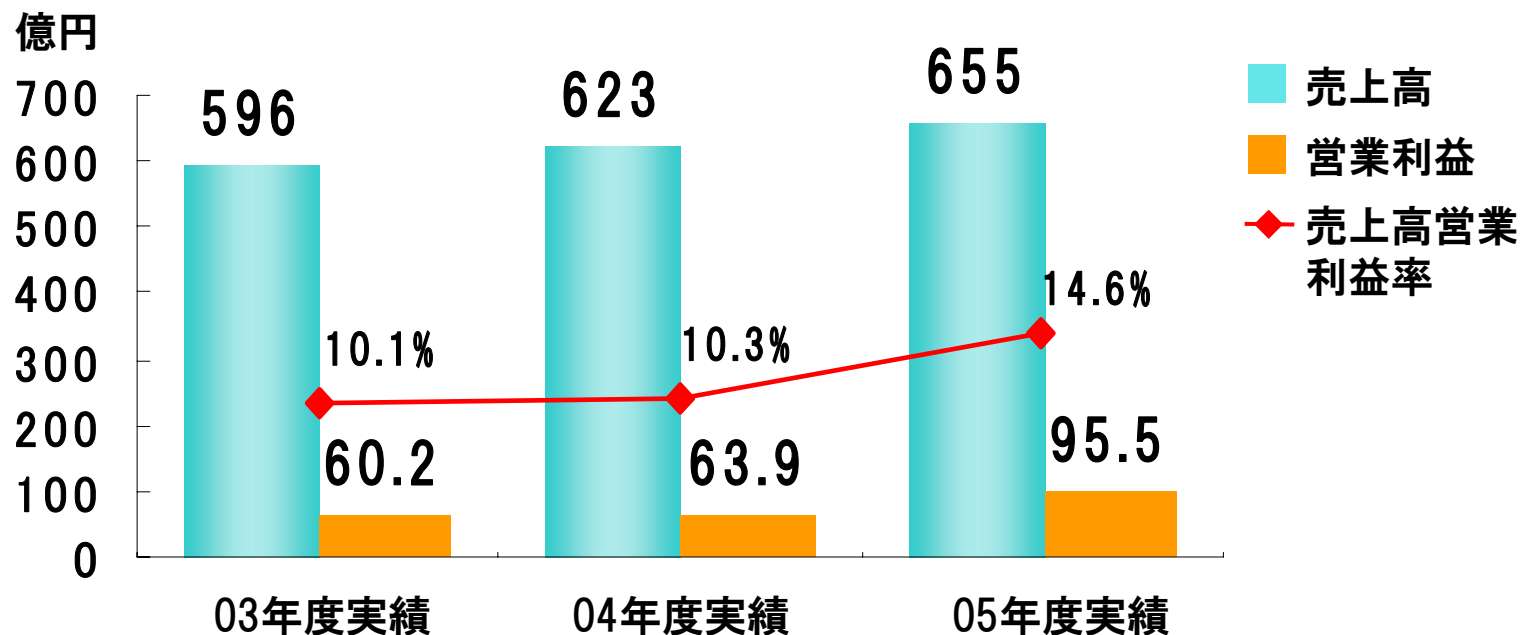
	03年度 実績	04年度 実績	05年度 実績	04年度比 増減	04年度比 増減率
工業用マシン	59,607	62,343	65,475	3,132	+ 5.0%
産業機器	17,592	22,568	21,290	△1,278	△5.7%
家庭用マシン	13,591	12,545	10,510	△2,035	△16.2%
電子・精密機器	12,851	14,712	14,799	87	+0.6%
その他	16,982	15,779	12,711	△3,068	△19.4%
売上高合計	120,625	127,949	124,788	△3,161	△2.5%

工業用マシンは大幅増益。訪問販売の不振により家庭用マシン・その他は大幅に悪化

単位:百万円

	03年度 実績	04年度 実績	05年度 実績	04年度比 増減	04年度比 増減率
工業用マシン	6,018	6,394	9,549	3,155	+49.3%
産業機器	△1,126	1,096	1,011	△85	△7.8%
家庭用マシン	1,587	665	△76	△741	—
電子・精密機器	1,802	1,734	1,732	△2	△0.1%
その他	1,052	1,393	242	△1,151	△82.6%
(消去)	△1,622	△842	△1,193	△351	—
営業利益合計	7,711	10,441	11,266	825	+7.9%

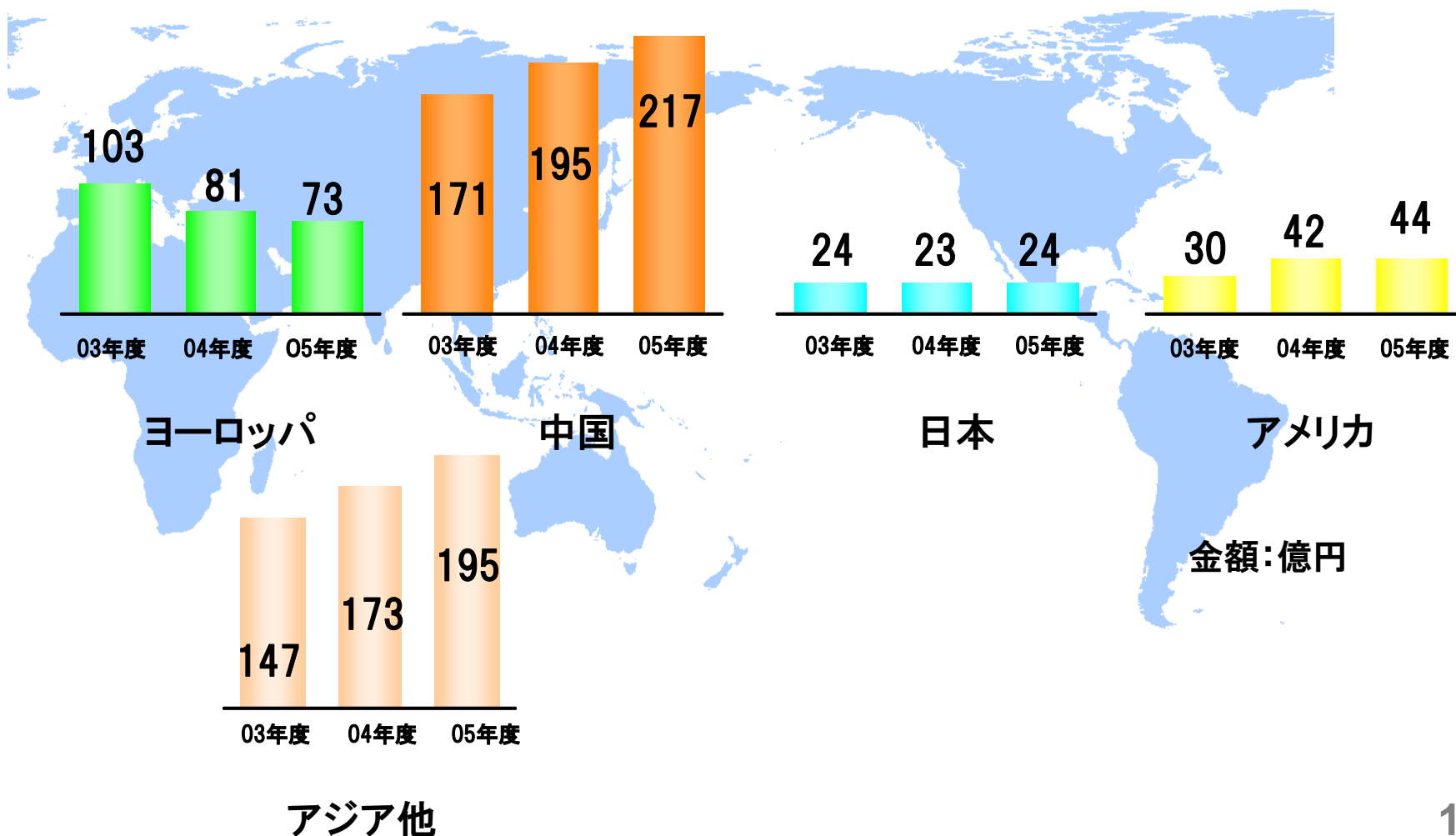
売上高・営業利益とも順調に増加



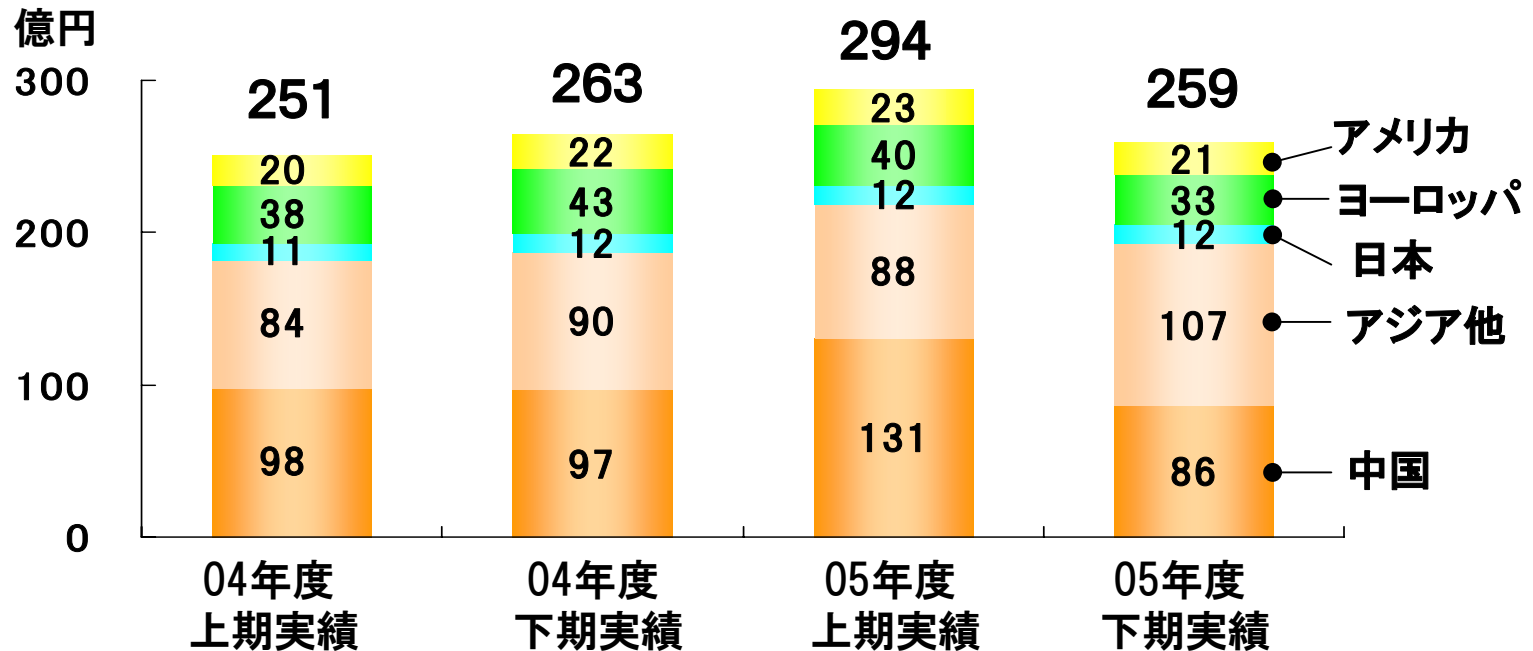
中国・アジアでの売上高が増伸。円安ならびに高付加価値製品の販売増により、営業利益率が一段と向上

05年度は中国・その他アジア地区で販売が増加

地域別売上高推移（*売上高は部品等を除く）

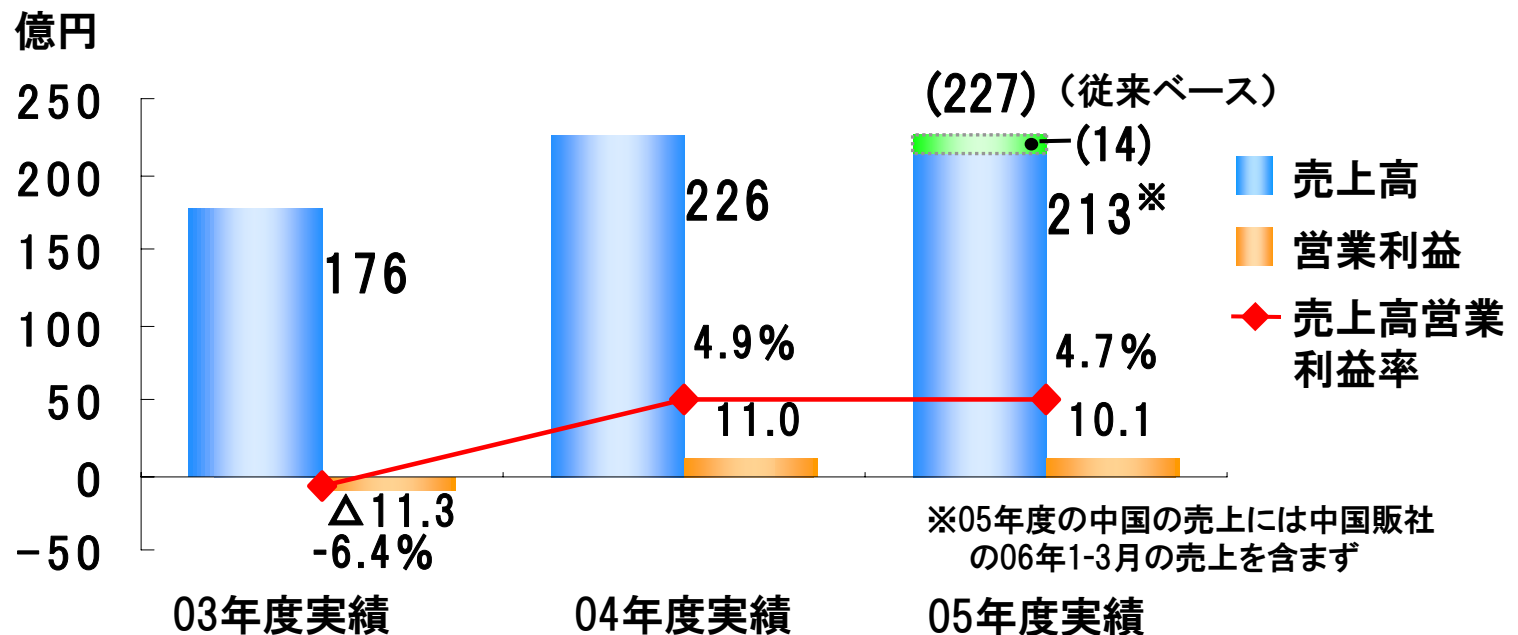


上期は中国が増伸、下期はアジア他が急伸(*売上高は部品等を除く)



05年度上期はクォータ制撤廃(05/1月)等の影響により中国での売上高が増伸。05年度下期は米国セーフガードの発動を背景に中国での売上高は大幅に減少したが、その他アジア地区での売上高が急伸

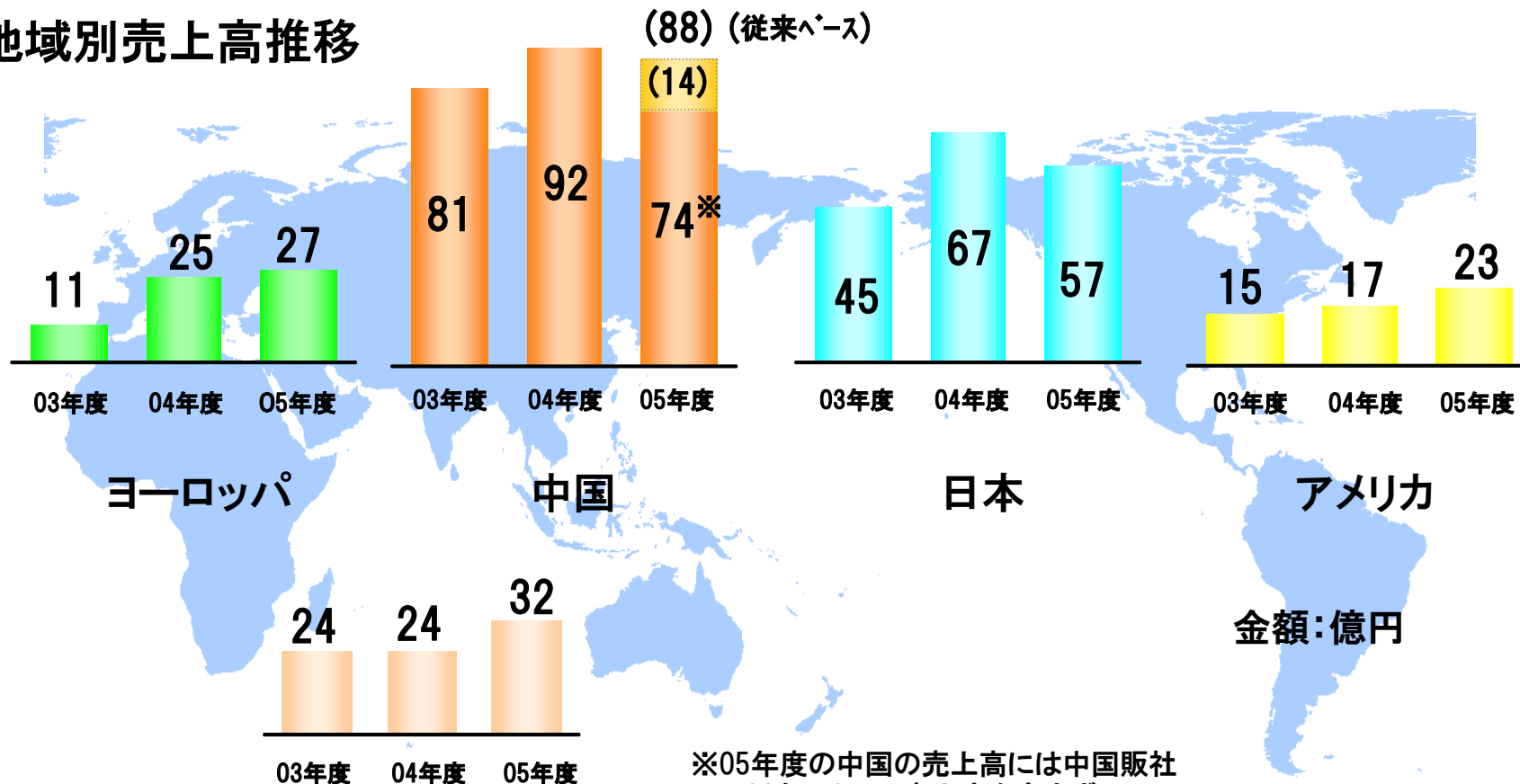
中国における売上高計上基準の変更により売上高は微減[※]となったが、実質は微増。営業利益は前年並みを確保



05年度下期から中国における売上高計上基準を変更。収益面では開発投資を吸収した上で前年と同水準の営業利益を確保

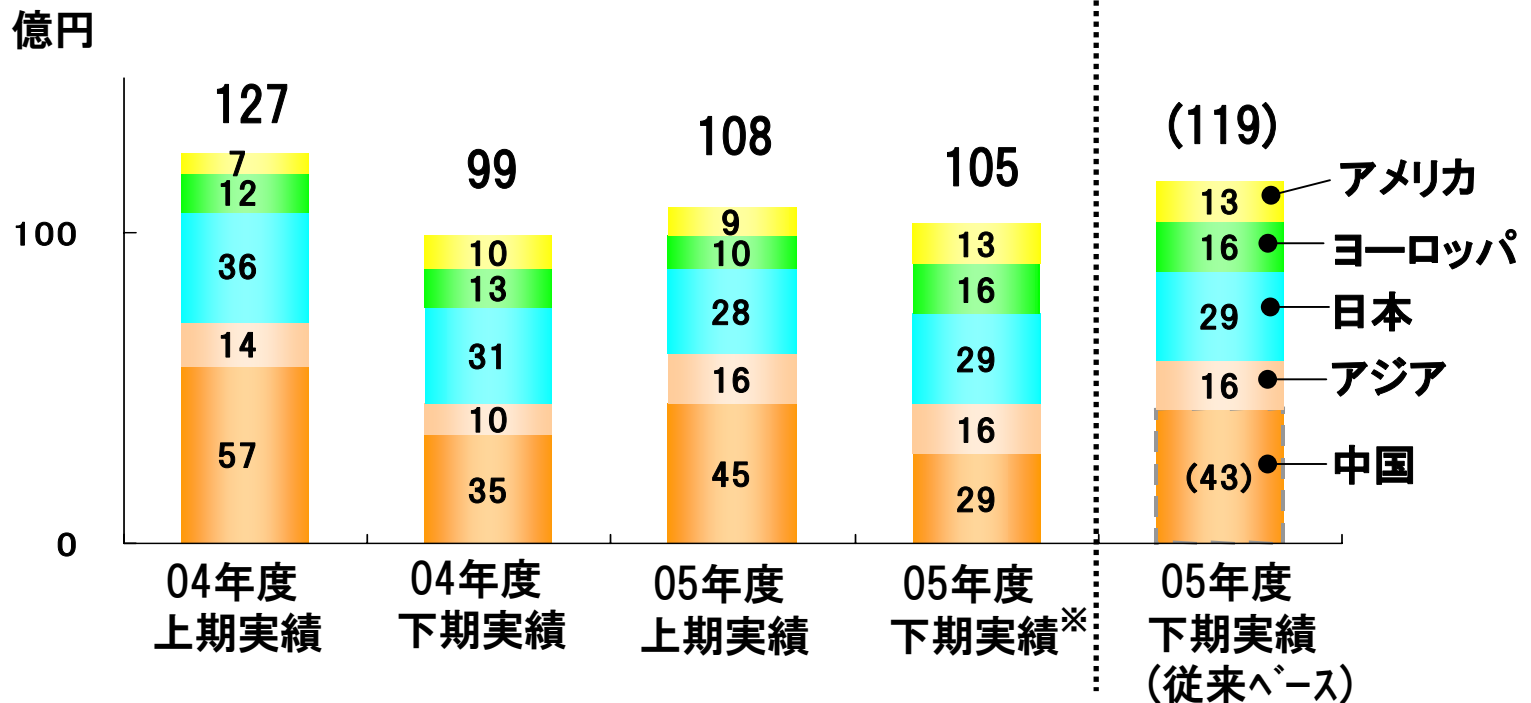
05年度は、日本・中国での売上高が減少。アジア・欧米では伸展

地域別売上高推移



※05年度の中国の売上高には中国版社の06年1-3月の売上高を含まず

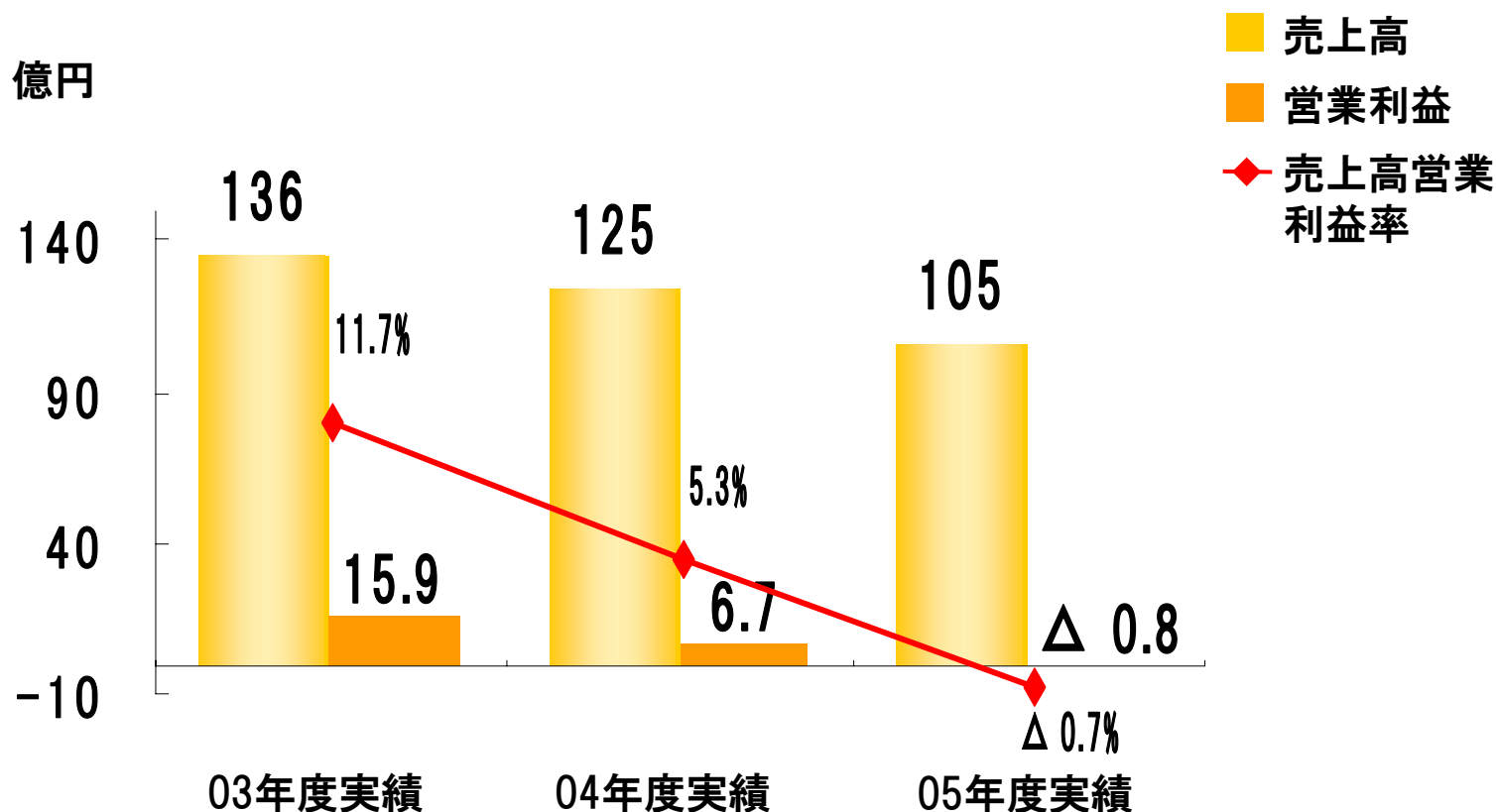
下期に欧米での需要が増加。中国市場も実質的には増加



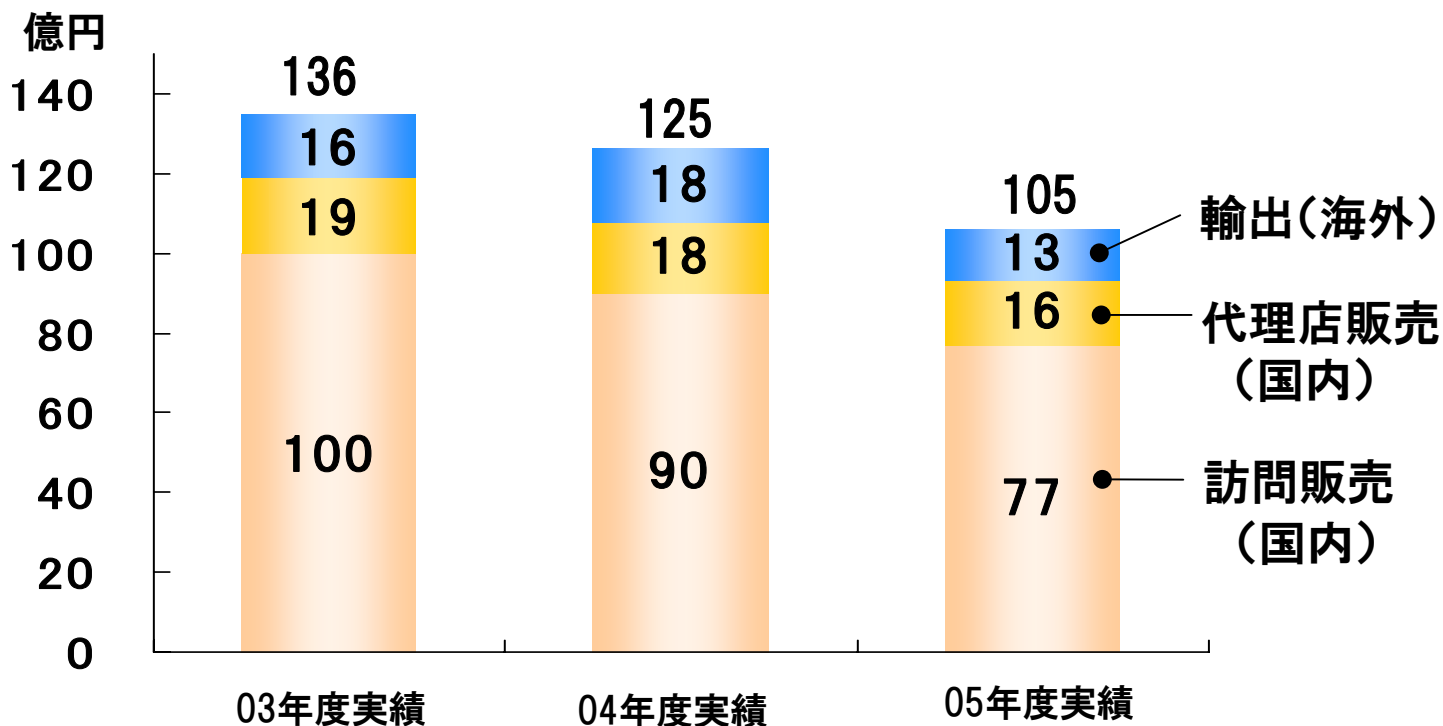
※05年度下期の中国の売上には中国
版社の06年1-3月の売上を含まず

04年度下期に一旦売上高は減少したが、その後は順調に増加傾向にある

訪問販売を中心に売上高が減少。これにより、営業利益は赤字となった

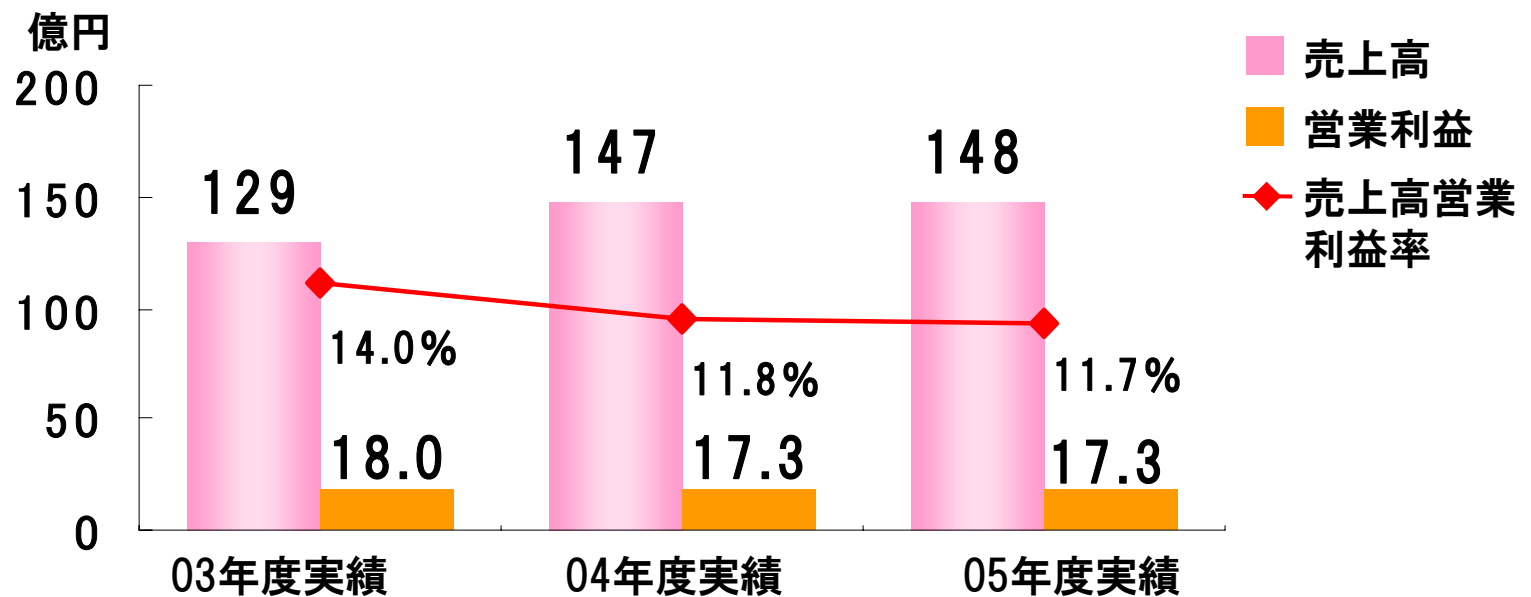


国内訪問販売は大きく減少。代理店販売・輸出も不振



特商法の改正など、訪問販売を取り巻く環境が厳しさを増したことにより
売上高が減少

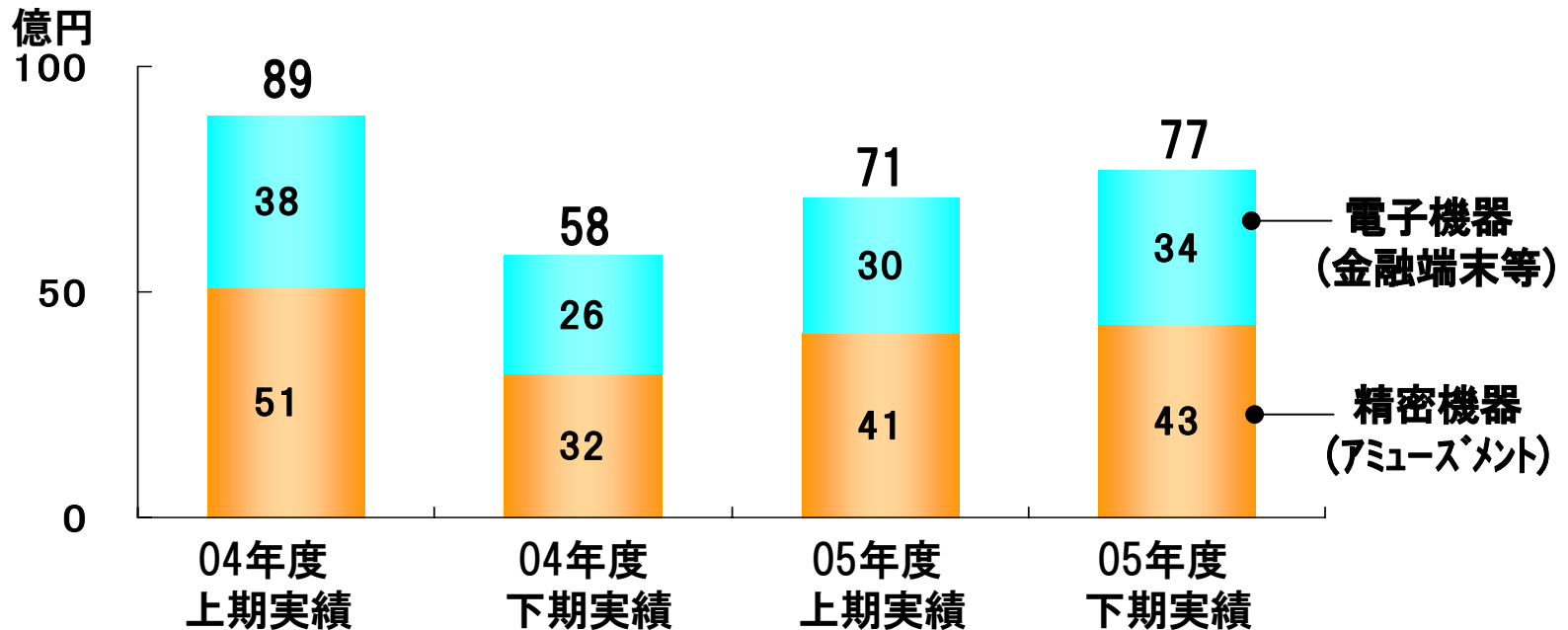
売上高・営業利益とも04年度とほぼ同水準を確保



売上高・営業利益とも、特需(風営法改正ならびに新札)のあった04年度並を確保

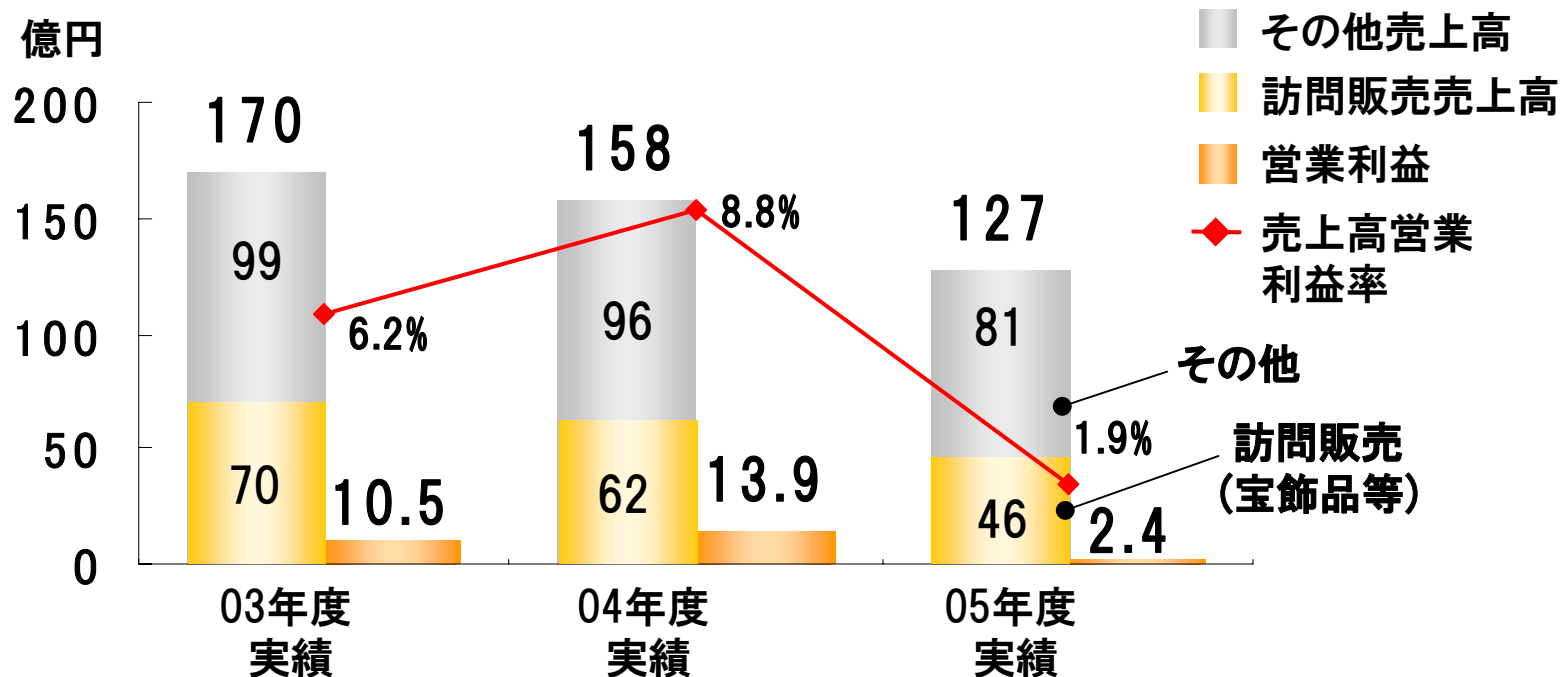
電子・精密機器事業 売上高内訳(半期)推移

電子機器・精密機器とも、それぞれ04年度下期を底に売上高は順調に回復

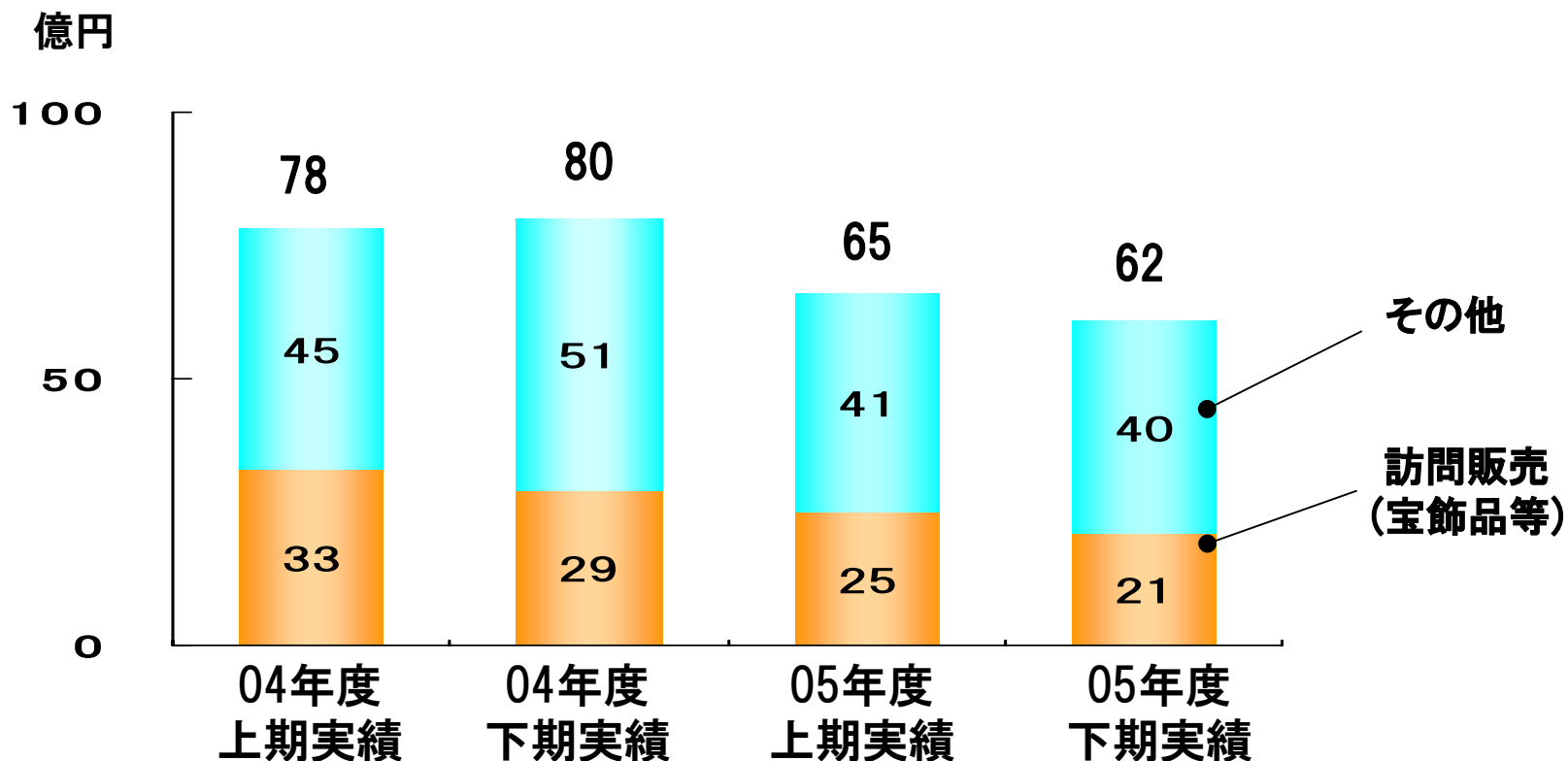


特需終了後、04年度下期には一旦売上高が減少したが、受注活動の強化により05年度上期以降は増勢に転じた

売上高・営業利益とも減少



宝飾品等の訪問販売の売上高減少が続いている



第3部

07/3期(06年度)業績予想

06年度は、中計最終年度の目標達成に向け、諸々の 基盤整備を推進

【06年度における基盤整備の概要】

〈開発投資〉⇒詳細は27ページ

- 中計の当初計画を上回る開発投資を実施

〈設備投資〉

- 海外3新工場の竣工
 - ・ベトナム工場(加工)、上海工場(電装)、寧波工場(部品)

〈情報投資〉

- 家庭用ミシン事業および海外販社(工業用ミシン)におけるERPシステムの導入

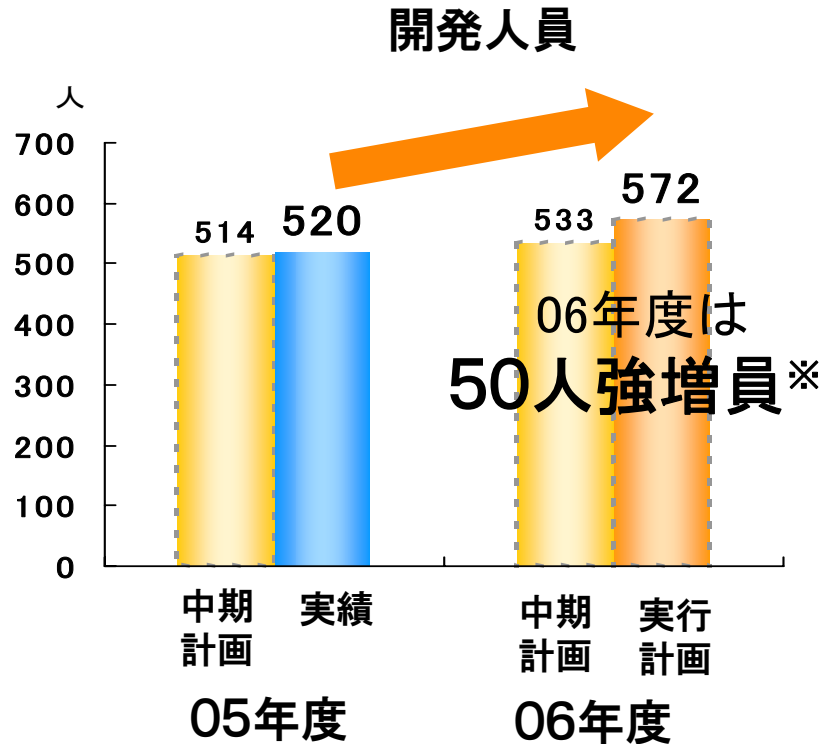
〈販売投資〉

- 工業用ミシン事業・産業機器事業とも、その他アジア地区での販売投資を拡大・強化

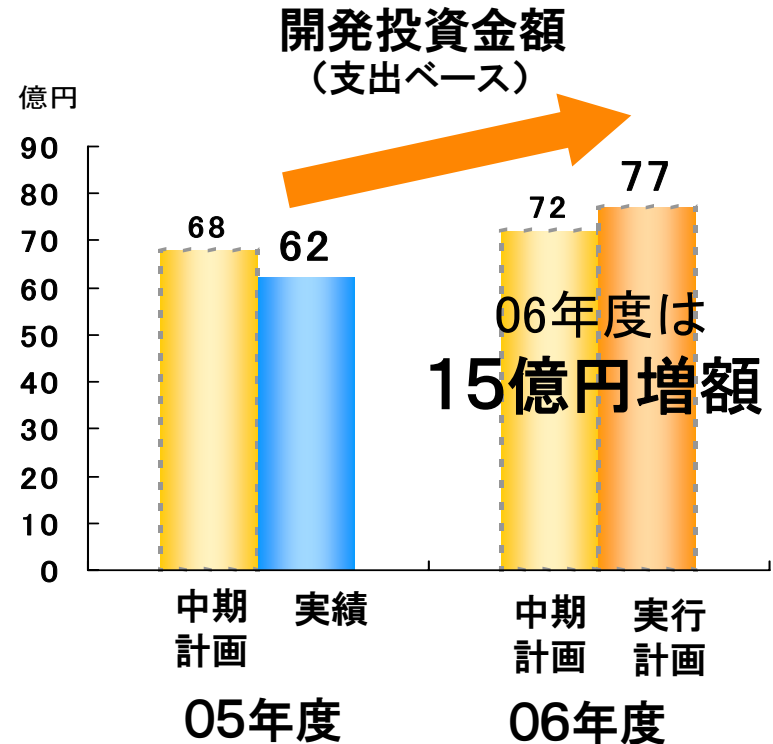
〈家庭用ミシン事業の総合的改革〉⇒詳細は28ページ

- 生産、開発、販売体制など事業全般に関して抜本的な改革を実施

成長に向けて開発体制・開発投資を拡大・強化



※外部リソースの活用を含む



増額する開発投資額の主な内訳 (単位:億円)

産業機器事業	8.6
家庭用ミシン事業	3.2
工業用ミシン事業	2.9

生産体制の再編、開発投資の強化、店舗の効率化、販売ルート の多様化など、総合的な改革を推進

【家庭用ミシン事業における総合的改革の骨子】

〈国内外生産体制の再編〉

- 国内・中国の生産拠点の再編を06年度中に完了

〈開発投資の強化〉

- 中価格帯商品など品揃えの充実に向けた商品開発の推進

〈訪問販売拠点の効率化〉

- 06年3月に、不採算店舗の統廃合により支店数を143→111に削減
06年度中に更なる店舗の効率化を推進し、固定費を大幅に圧縮

〈販売体制の改革〉

- 訪問販売に加え、職域、量販店等、販売チャネルの多様化により販売台数の増大を図る
- 輸出(海外)についても、販路拡大を推進

設備投資・開発投資等の増加により、06年度の利益は減少を見込む

単位:百万円

	04年度 実績	05年度 実績	06年度 通期予想	前年度比 増減
売上高	127,949 (126,409)	124,788 (123,654)	129,000	4,212 (5,346)
営業利益	10,441 (8,901)	11,266 (10,132)	7,900	△ 3,366 (△ 2,232)
経常利益	8,646	8,890	7,600	△ 1,290
当期純利益	5,523	5,369	4,500	△ 869

06年度より訪問販売の分割払手数料を営業外収益に計上。04年度・05年度の()内の数値は同様の方法により計上した場合の値

07/3期(06年度)セグメント別業績予想 売上高 前年比較

工業用マシン・産業機器を中心とした売上増により、訪問販売の減収をカバー。05年度を上回る売上増を見込む

単位:百万円

	05年度実績	06年度通期予想	前年度比増減
工業用マシン	65,475	68,800	3,325
産業機器	21,290	24,100	2,810
家庭用マシン※	10,510 (9,801)	8,300	△ 2,210 (△ 1,501)
電子・精密機器	14,799	15,600	801
その他※	12,711 (12,286)	12,200	△ 511 (△ 86)
売上高合計	124,788 (123,654)	129,000	4,212 (5,346)
※うち訪問販売 の合計	12,285 (11,151)	8,000	△ 4,285 (△ 3,151)

06年度より訪問販売の分割払手数料を営業外収益に計上。05年度の()内の数値は同様の方法により計上した場合の値

開発投資の増加、訪問販売の減益により、営業利益は減少を見込む

単位:百万円

	05年度実績	06年度通期予想	前年度比増減
工業用マシン	9,549	8,000	△ 1,549
産業機器	1,011	1,400	389
家庭用マシン※	△ 76 (△ 785)	△ 2,100	△ 2,024 (△ 1,315)
電子・精密機器	1,732	1,400	△ 332
その他※(消去含む)	△ 951 (△ 1,376)	△ 800	151 (576)
営業利益合計	11,266 (10,132)	7,900	△ 3,366 (△ 2,232)
※うち訪問販売 の合計	110 (△ 1,024)	△ 1,400	△ 1,510 (△ 376)

06年度より訪問販売の分割払手数料を営業外収益に計上。05年度の()内の数値は同様の方法により計上した場合の値

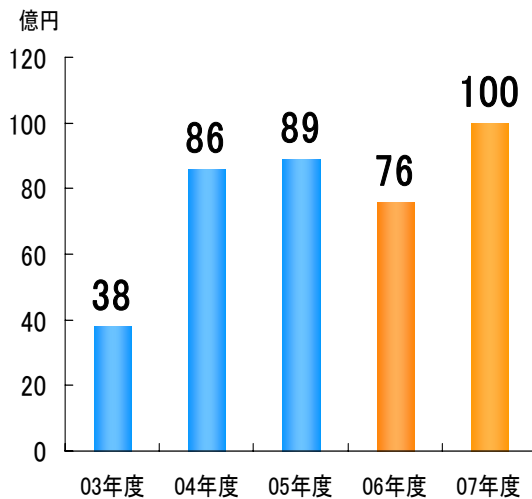
第4部

中期経営計画の達成状況

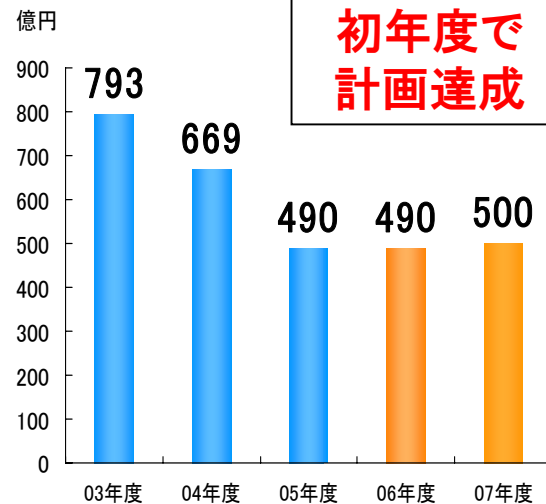
目標項目の達成状況

目標項目	05年度(実績)	06年度(計画)	07年度(目標)
経常利益額(売上高経常利益率)	89億円(7.1%)	76億円(5.9%)	100億円(7%)
有利子負債	490億円	490億円	500億円
株主資本(株主資本比率)	277億円(24.4%)	310億円(27.4%)	350億円(30%)
(参考 売上高)	(1,248億円)	(1,290億円)	(1,450億円)

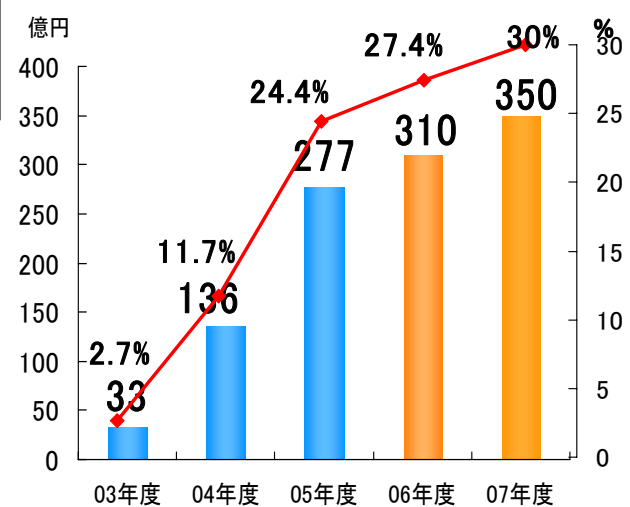
経常利益



有利子負債



株主資本・株主資本比率



財務基盤の一段の充実を図りつつ、株主への配当還元を推進

05年度

- ・04年度の4円/株から、6円/株に増配

06年度

- ・06年度は、中間3円/株、期末5円/株の年8円/株への増配を目指す

本資料における業績予想及び将来の予想等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実な要素を含んでおります。
従いまして、実際の業績等が様々な要因により異なる可能性がありますことをご了承ください。

JUKI株式会社

お問合せ先： 総合企画部 担当：山田

TEL :03-3480-1742 FAX :03-3480-9734

ホームページURL: <http://www.juki.co.jp/>